

SD-01 屋根 屋上パラペット 共通事項

- 1. 適用範囲  この共通事項は寒冷地には適用しない。
- 2. パラペット
  - 立上りコンクリート厚さ 180mm以上とし、ダブル配筋とする。
  - あごの厚さ 180mm以上とし、ダブル配筋とする。
  - あごの水切りを設ける。
  - 防水層立上り寸法 水上床仕上面より200mm以上とする。
  - 防水層端部押え れんが、又は金物で押える。
  - 天端の水勾配 1/10以上とする。
  - 種類及び仕様 当社標準仕様による。
- 3. 防水層  原則として普通コンクリートとする。
- 4. 防水押えコンクリート
  - 配筋の要否、範囲を検討する。
    - t=60mm以上直押えとする。(モルタル仕上不可)
    - 車路、自走式ゴンドラ、ゴンドラ及び機械基礎まわり、鉄骨造で大スパン等の場合、配筋(溶接金網2,φ100×100)をする。
  - アスファルト防水(押えあり) 1/100以上(スラブで勾配を取る)
  - 露出防水(アスファルト、又はシート) 1/50以上(スラブで勾配を取る)
  - 溝勾配 1/200以上
- 6. 伸縮目地
  - 各部伸縮目地の仕様

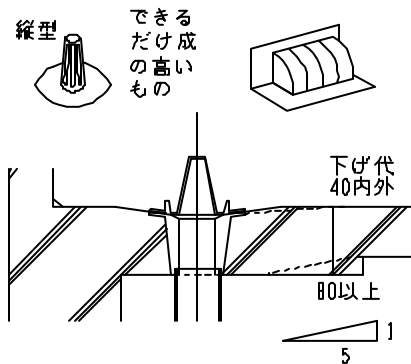
部 位	目 地 幅	目 地 位 置
一 般 部	200mm	3.0m内外 4.0m以下
パラペット際 基礎まわり	200mm以上	溝のある場合 溝端より 300m以内
		溝のない場合 立上り面より600mm以内
防水立上り部 (モルタル塗り)	こて目地(V型)	1.5m以上 2.0m以下
溝部及び一般 部のモルタル塗り 部分	伸縮目地20mm	3.0m以上 4.0m以下
	こて目地(V型)	1.5m以上 2.0m以下

- プラスチック既製目地材を使用する場合は、耐候性、熱伸縮を考慮し選定する。
- タイル仕上の場合、押えコンクリートの伸縮目地とタイルの伸縮目地とを合合わせる。
- 設備機器、手すり基礎などは伸縮目地にまたがらないように配置する。

7. ルーフドレン

ストレーナの形は右図による。  
下げ代40mm程度を確保できない場合は、ドレン周辺のスラブを下げる。

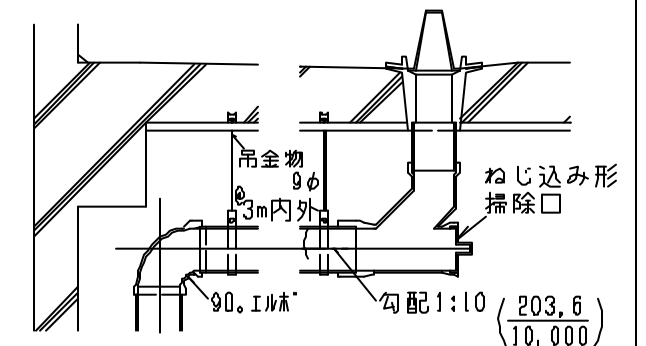
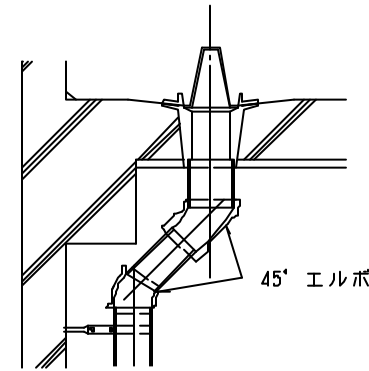
(スラブの薄い場合、断熱材の無い場合、ドレンの成が高い場合等)



- 管径と受持ち得る最大屋根面積(最大降雨量 180mm/hrの場合)  
(建築工事標準詳細図(56年版建設大臣官房官庁営繕部)による)

管 径 mm	屋根面積 m <sup>2</sup>	注意事項
75	78	噴型ドレン。又は横走り管の長い場合は受持ち得る屋根面積を1/2程度とする。
100	180	
125	280	
150	430	

- 屋根にはルーフドレンを2ヶ所以上設ける。但し小面積の場合は1ヶ所をオーバーフロー管に代えても良い。
- ドレン確認・メンテナンスのできる位置に設置する。
- 下屋、庇等の上部に壁がある場合は、壁面積の50%を屋根面積にに加える。
- 外部に設ける場合で、塩ビ管を使用する場合はVU管とする。
- 衝撃を受ける恐れのある部分には養生管を設ける。
- 屋内に設ける場合は原則として白ガス管とし、下図の納まりとする。



(天井がある場合点検口が必要)

